

2011年(平成23年)3月27日 日曜日

「阪神」の経験

生かせず難航

犠牲者身元確認

阪神大震災での死亡状況

形態	死者数	比率(%)
家屋倒壊	4817	88.0
火災	561	10.3
車両走行中	17	0.3
土砂崩れ	11	0.2
その他	65	1.2
計	5471	100.0

兵庫県警が1996年1月に公表した死者数。身元不明者や避難所などで死亡した震災関連死は含まない

東日本大震災で犠牲になった身元が判明した。今回の地震で、津波で多くの人や家屋が流されるなど1995年の阪神大震災とは被災状況がまったく異なり、当時の経験を生かせる余地は少ない。当時、身元確認に携わった医師や警察官は「特効薬はなく、地道にやってみよう」と指摘している。

6434人が死亡、3人が行方不明となった阪神大震災との違いについて、医師らは「多くの人が活動している日中に発生、被災地域が広範囲に及ぶ」などの特徴を挙げる。

歯のカルテ流し

阪神大震災の際、兵庫県警は捜査一課を中心に200人以上の警察官で検視と身元確認に当たった。地元医師会や法医学、警察歯科医会も協力。約2週間延べ約580人が動員された。

「(阪神では)明け方の地震で、多くの人が自宅に亡くなった。顔に傷がなく、身内が見て誰か判別できる人が多かった」。兵庫県の警察医だった西村明徳(徳島大教授)は振り返る。

西村教授らは神戸市内で3651人の遺体を検案。このうち約90%が自宅に亡くなり、約85%は家族の目視で

身元が判明した。今回の地震では、津波で人が建物もろとも離れた場所まで流されたケースが多く、西村教授は「遺体が泥に埋まり、腐敗が進むことも予想される。そうなれば家族でも判別するのは難しい」と指摘する。

阪神大震災の際、兵庫県警は捜査一課を中心に200人以上の警察官で検視と身元確認に当たった。地元医師会や法医学、警察歯科医会も協力。約2週間延べ約580人が動員された。

大が被害津波 ■ 広範囲 ■ 発生に日中

される。

阪神大震災時に県警捜査一課長として指揮を執った北口紀生さん(71)は、20日間昼夜不眠不休で遺体と向き合った。「当時DNA鑑定は行われず、屋外で見つけた遺体は歯の鑑定で身元が分かることが多かった」と話す。

歯は死後も変化が少なく、遺体が腐敗した場合でも、治療痕などが身元の特定につながる場合が多い。当時、県警の警察歯科医だった歯科医佐谷道夫さん(69)によると、スナッフ写真に写った金歯から身元が判明したケースもあったという。だが、今回は照合に必要なカルテや、保管している歯科医の建物が津波で流されているケースもあり、関係者は頭を抱えている。

PTSDに注意

過去の経験が十分生かせない事態に对应策を見いだせていないのが現状だ。北口さんは「地道かつ冷静にやるしかない」と強調。「二人でも身元を間違えれば警察への信用がなくなる。そうならば『ひょっとしたらまだ生きているのでは』と遺族に考えさせてしまふことになる」と話す。

関西大学の河田恵昭教授(防災・減災学)は「泥だらけで傷ついた遺体の身元確認には、DNA鑑定など科学的手法を使うべきではないか。被災者に身内の遺体を確認させることで心的外傷後ストレス障害(PTSD)になる可能性もあり、注意すべきだ」と話している。

徳島大「家族でも判別困難」
西村教授